

アイヌ民族の碑を訪ねて

7月26日(木) 14:40~16:10 札幌会場

9月7日(金) 19:00~20:30 東京会場

講師 杉山 四郎 北海道苫小牧工業高等学校教諭

イランカラブテ クアニ アナッネ 杉山四郎 クネル ウェネ。

私は小樽で生まれ、札幌の大学を出た後、長い間空知で教員をしていました。空知にいた時は、主に朝鮮人、中国人の強制連行について調べていました。縁があって苫小牧に移住し9年になります。ここでも何か調べなければ自分らしくないなと思い、苫小牧というよりも胆振、日高の歴史を調べてみることにしました。そうすると、当然、アイヌ民族のことが視野に入ってきます。アイヌ民族のことを調べることにして9年経ちました。

それから苫小牧市に住んでいる意味を見出そうと思い、ウタリ協会苫小牧支部のアイヌ語教室に通うようになって6年経ちました。ふざけた受講生で、楽しくやればいいと思い、よそ見をしながら講師の話聞き、酒が好きなので、飲み会があると聞くとすぐに飛んでいくというようなことでやっていました。ところが支部長からアイヌ語の講師をやれという話があり、冗談かと思ったのですが、今年の1月からやらされ、必死にアイヌ語を勉強しているところです。

今日の話のタイトルでもありますが、私は『アイヌ民族の碑を訪ねて』という本を出しました。これは完了形ではなく現在進行形なのです。碑があるのは分っていて、調査をしていない碑がまだあるのです。このセミナーの話があってから、これではいけないと思い、7月半ばに妻に車を出して欲しいとお願いして、2泊3日で厚岸、根室、標津まで調査に行ってきました。

これまでの9年間で、私は108の碑を調べました。これを何とか分類できないかと思い、アイヌ民族が建立した碑、アイヌ民族が建立に関わったと考えられる碑、アイヌ民族のことが刻まれた碑、というふうに分けてみました。それで、アイヌ民族が建立した碑が幾つかというと32です。ただし、かなり古い碑もあって自信がないのです。本当にアイヌ民族が建てたかどうか確証が持てない碑もありますので、30を越えるというぐらいに押さえてもらえればと思います。ウタリ協会 支部建立などと記された碑ははっきりしていますが、私はそういう碑だけではなく、建物も碑に数えました。例えば、昨年亡くなられた萱野茂さんが建てた平取町二風谷のアイヌ文化資料館も、私は巨大な立派な碑だと思っていますので、これも数えています。

それから、アイヌ民族が建立に関わったと考えられる碑、いわゆるシャモというか和人が関わった、アイヌ民族も関わったという碑は52です。これも厳密に言うと自

信がないので、50を少し越えるというぐらいに押さえてください。

そして、アイヌ民族のことが記された碑は24と捉えました。これらを合計すると、108ということになります。

こういうことをいつから調べ始めたかといいますと、苫小牧に行った1998年の7月からです。そして、2007年7月、先ほどお話した厚岸方面、道東での調査でちょうど9年間ということになります。

他に、見落としている碑はないのかというと、平取町の荷負本村というところに1つあるのです。まだ調べていないので、何とも言えないのですが、昭和の初めに建てられた碑で、アイヌ民族の碑だと言っていいと思います。これを含めると、109ということになります。

次に、建立の年代別に分類してみました。これは自信を持って言えます。なぜかと言うと、どの碑にも建立年月日が書かれているからです。また、書かれていなくても調べることができたのです。

まず、明治以前の碑です。明治以前の碑と言うと、「へえー、あるのか」と思われると思いますが、これは5つあります。どこにあるかと言いますと、例えば松前町にあります。これは誠に忌まわしいものですが、耳塚です。シャクシャインの戦いの時に、松前藩の武士が、討ち取ったアイヌ民族の耳を切り取って、持ち帰って埋めたものなのです。シャクシャインの戦いは1669年ですから、相当古い話です。

明治時代に建てられた碑は2です。それから大正時代が3、昭和20年以前、第二次世界大戦が終わるまでの昭和期の碑が12です。この時までには22が建てられています。この数字は何回も数え直して間違いのない、自信を持って言える数字です。

それから、昭和20年以降、昭和64年までの44年間に建てられた碑は61です。44年間にどれ位の割合で碑が建てられたか計算してみると、1年平均1.4となりました。平成になって早くも19年になりますが、この19年間で25が建てられています。これも割合を計算すると、1.3となります。戦後の昭和期は1.4ですので、若干建てられるペースが落ちていますが、碑は確実に今でも建てられている、とすることができます。戦後に建てられた碑は全部で86となりますので、戦前の22と合わせて108となります。

一番新しい碑については後で申し上げたいと思いますが、この間、苫小牧支部のアイヌ語教室の雑談の中で、支部長から、「苫小牧支部でも碑が欲しい」という話が出

ました。そして、建てるとしたらどこがいいだろうとか、10分くらい、集まっていた10数人で話をしました。それで、建てるとしたら1,000万円近いお金が必要になりますが、支部の財政はそれほど潤沢ではありませんし、230人いる支部会員から集めても、それだけのお金を集めるのは難しいということがあります。そのため苫小牧市との話し合いも必要になってきます。このように、苫小牧支部でも碑を建てたいということを言っています。また、近くの千歳支部の支部長も碑を建てたいと言っていました。ということで、これからも碑が建つ可能性はありますので、平成25年あたりにはどうなっているのかと思います。

次は、団体・個人・その他に分類してみました。支部が祖先を慰霊するために建てたという碑を、団体を対象とした碑として数えたのですが、これは51あります。これはちょっと自信がないので、50を少し超えるくらいに捉えてもらえればと思います。

それから、個人を対象とした碑ですが、これはさらに、和人や外国人を対象にした碑と、アイヌ民族を対象にした碑の2つに分けました。外国人というのは、例えばジョン・パチラーとかニール・ゴードン・マンローというような人物です。和人というのは誰を指すかということ、多くは学校の先生です。その他にお医者さんがいます。誰彼と差別することなく、積極的にアイヌ民族を診たお医者さんが何人かいたのです。こうした人たちの碑を、19と数えました。

そして、アイヌ民族の血を受け継いだ人に対する碑を28と数えました。28もあるのです。名前を挙げると、おそらく知っているという人もいます。吉良平治郎、平村ペンリウク、大河原コピサントク、松井梅太郎、松前ピリカ、女性です。北風磯吉、中村要吉、向井八重子、パチラー八重子のことです。知里真志保、伏根弘三、違星北斗、アイヌの啄木と言われた歌人です。モザルック、聞いたことはないと思いますが、中札内に像があります。知里幸恵、この人は余りにも有名です。シャクシャイン、クーチンコロ、森竹竹市、違星北斗と大変仲の良かった歌人です。弁開胤次郎、山本多助、金成マツ、金成マツは知里真志保、幸恵のおばさんに当たる人です。それから太田紋助です。今、20人の名前を挙げましたが、この人たちの碑があるのです。

吉良平治郎は釧路です。平村ペンリウクは平取、大河原コピサントクは鶴川です。松井梅太郎は旭川です。松前ピリカは平取です。北風磯吉は名寄です。中村要吉は帯広と言っておきます。碑は音更にあります。パチラー八重子は伊達です。伊達というより有珠と言ったほうがいいかもしれません。知里真志保は登別です。札幌にも碑があります。伏根弘三は帯広です。碑は音更にあると思うのですが、私はこの碑を探し切れていません。違星北斗、余市の出身で碑も余市にあります。二風谷にもあります。モザルック、先ほども言いましたが中札内にあ

ります。知里幸恵、彼女の碑は旭川と登別にあります。登別の碑は墓石です。シャクシャインは新ひだか町静内の真歌の丘にあります。クーチンコロ、この人は旭川です。森竹竹市は白老です。弁開胤次郎の碑は黒松内にあります。この人については、青森県の八甲田山遭難事件の記念館の中に資料があります。山本多助は鶴居です。金成マツの碑は二風谷にあります。それから登別の墓地にも碑があります。彼女はキリスト教徒なので十字架の碑です。それから太田紋助ですが、私は、この人の碑を見たくて厚岸まで行ったのです。昔、厚岸に屯田兵が入ったのですが、そこを太田屯田と言ったのです。なぜ太田と言ったのかということ、太田紋助の名前からとっているからです。厚岸に屯田兵を入れようとした時、その場所の選定で彼が奔走したのです。

中には、2つも3つも碑を持っている人がいます。一番多いのはパチラー八重子で、4つあります。ただし、1つは無くなりました。他の3つは3、4年前に有珠湾のところに連続して建てられ、今は大事な観光資源となっています。違星北斗にも2つあります。

碑だけではなく、吉良平治郎の事が、2年ほど前に釧路市で芝居になって演じられました。この時も妻に車を出して欲しいとお願いして、見てきました。感動して、ぼろぼろ泣きながら帰ってきました。何で妻に車を出して欲しいと言うかといいますと、私は運転できないからです。そのため、常に妻に向かって手を合わせて、お願いしますと言って、2人で調査に行くのです。

その他の碑は10あるのですが、その他が何かと言いますと、先ほども言いましたが、建物が入っているのです。例えば旭川には「川村カ子トアイヌ記念館」がありますし、幕別には吉田菊太郎の「蝦夷文化考古館」があります。それから音威子府には砂澤ビッキの「BIKKY アトリエ3モア」があります。また、二風谷には萱野茂さんの「アイヌ文化資料館」、静内の真歌の丘にある「アイヌ民俗資料館」も碑として数えています。

それから学校があります。いわゆるアイヌ学校ですが、碑が3ヶ所にあります。1つはむかわ町穂別の和泉に、アイヌ学校があったという碑があります。また、音更に開進小学校があったという碑があります。もう1ヶ所は帯広です。国道38号線沿いにあります。

珍しい碑としては、アイヌ犬の碑があります。これは北海道ではなく青森県にあります。八甲という犬とベンケイという犬の像です。日露戦争を前にして、八甲田山で陸軍が雪中行軍の訓練を行ない、200人近い若者を無駄死にさせます。この時、弁開胤次郎ら9人が呼ばれ、アイヌ犬を連れて捜索に行き、危険を顧みないで、死体を次から次と掘り出したのです。その時に活躍した犬たちの像なのです。

その他にもう1つ、珍しい碑が白糠にあります。それはクジラの碑です。クジラをアイヌ語でフンベと言うのですが、「フンベカムイ」の碑が、白糠に入る手前のパシ

クル沼の近くにあるのです。クジラの形をした像で、太平洋に面した波打ち際に建っています。ここで、白糠支部の人たちが、年に1回感謝祭を開いています。昔、クジラが上がるということは食料が保障されることになり、大変助かったのです。白糠支部の人たちは、昔、飢えに苦しんだ時に、たまたま浜に上がったクジラを食べて飢えを凌いだことから、食糧不足を永遠に忘れないということで、感謝祭を行っているのです。こうした碑は団体でも個人でもないと思いましたが、その他に入れています。

私はこれらのうちの10分の1くらいですが、特に注目した碑があります。これらの碑を、どうしても皆さんに知っていただきたい。

まず、「和人」教育者に対する碑が、全道に幾つかあるのです。アイヌ学校が作られ、和人の先生が配置されて、アイヌ民族の子供たちへの教育が行われたのですが、中にはものすごく熱心に教える先生がいました。その代表的な例が、虻田の白井柳治郎という人です。大変熱心で、この地域ではカリスマ扱いされるほど立派な方というふうに思います。彼は、生きていた時からたくさん碑を建てられています。碑を建てることで、彼に感謝の気持ちを表したのです。他にもそういう碑が幾つかありますので、名前を挙げてみます。

いい教育をしたということで褒められているのが永久保秀二郎という人です。釧路の春採で教育をしたのです。それから、三浦政治です。この人も釧路です。それから、吉田巖、この人は虻田です。帯広でも教育をしました。ただし、彼については碑がありません。なぜ無いのかと問い、帯広市の教育委員会に行って聞いてみたことがあるのですが、賛否両論あるというのです。碑を建てることではないという意見と、碑を建てるべきだと意見に分かれていて、建てられないということです。それから、泉致広、この人は元室蘭で教育をしました。それから、黒田彦三です。この人の碑は、二風谷の二風谷小学校の中にあります。それから、山本儀三郎、この人の碑は、前にウタリ協会の理事長をされていた野村義一さんが中心となって建てた碑です。これは碑というよりも墓石です。しかし、白老の多くの方が、お金を出したり労力を出して建てていますので、碑と数えたいと思います。今挙げた人たちは、たくさんの人たちによって碑を建ててもらい、今だに教師の鏡であるというふうに言われている人たちです。

ただ、手放しでは喜べません。どうしてかという、「アイヌ学校ではアイヌ語を使ってはいけない、日本語でしゃべれ、日本語で勉強しろ」と言われたのです。苫小牧支部のアイヌ語教室の中で、「俺たちは言葉を奪われたよな、誰が奪ったのか、その先頭に立ったのは学校の先生だよな」という話がでます。アイヌ学校では、子供たちがアイヌ語でしゃべると先生が怒ったそうです。おそらく、「お前ら何をしゃべっているんだ、日本語でし

ゃべれ」と言って、叩くこともあったのではないかと思います。

次に、ウタリ協会 支部が建立した碑ですが、今から30年くらい前、1970年代後半から碑の建立が盛んになります。そのトップを切ったのは、釧路支部です。釧路支部は三浦政治の顕彰碑を建てました。1977年11月23日です。それから、今から2年ほど前になりますが、白老支部がものすごく大きい碑を建てました。それは「アイヌ碑」というものです。それまでの間、16支部が21の碑を建てています。

その16支部は芽室、様似、浦河、白糠、虻田、穂別、新冠、八雲、音別、本別、門別、伊達、三石、鶴川、これらと先ほどの釧路と白老です。これらの支部が、1970年代後半から現在まで碑を建てているということです。そして、苫小牧支部でも建てようとか、千歳支部でも建てようということになっています。

碑は、お金が集まれば建てることはできます。500万円でも700万円でも1,000万円でも集まったら、場所さえ特定できれば建てることのできるのです。碑を建てる時に問題になるのは、何を刻むのかということです。「ウタリ」と書くか「アイヌ」と書くかで、ものすごく苦しむのです。お金が集まって碑を建てようとするところまではいいのですが、表面に何を書くかということで激論が交わされるのです。

白糠に「アイヌ弔魂碑」が建っていますが、今から30年くらい前の白糠では、例えば学校の先生が「アイヌ」と言ったら、即、PTA、父母が学校に怒鳴り込んでくるというような町だったのです。そうした町で碑を建てることになって、「ウタリ」にするか「アイヌ」にするかということで、支部内でもものすごい論争になったそうです。とにかく碑を建てようということで、若者がお金を集めるために1軒1軒回ると、「お前ら、何て刻むんだ」と言われ、その度に若者たちは帰ってきて、白糠の過去を勉強をするのです。そしてまた行って、お金を集めてくるのです。この話に感動するのですが、「ウタリ」にするか「アイヌ」にするかということだけで、もめるのです。私はもめていいと思います。もめなければだめなのです。「ウタリにしよう」「アイヌにしよう」というような、簡単なことではだめなのです。でなければ、集めたお金の価値がなくなってしまうのです。

それから大変感動した碑があります。それは、正面に刻んだ文字を換えているのです。これは伊達支部なのですが、すごいことだと思います。建立から10年後にです。私は感動しました。碑を建てて、「ああ良かった、これでいいな」ということにはならないのです。やはり時代とともに、刻む文字とか自分たちの心構えというものは変わってくるのです。だから、「せっかく刻んだけど、もう1回刻み直すべ」ということが、あってもいいと思います。

私が見てきた108のうち、107までは日本語で書かれ

ています。皆さん変だと思いませんか。アイヌ民族の碑なのだから、アイヌ語で書くべきではないかと思うのですが、アイヌ語で書く方が、祖先の供養にもなるのではないかと思うのですが。そうすると周りの人は、何て書いてあるか分からないということにもなりますが。

では、スライドで碑をお見せします。

このスライドは「虻田小学校」です。

次、お願いします。これは学校に向かって延びている坂道ですが、「白井坂」と言います。国道 37 号線から函館本線を渡って、山の方に向かっていきます。先ほど言いました、白井柳治郎は勅任官に任命されるのです。えらい出世だと思います。それはいい教育をしていたからだと思いますが、虻田の住民は白井先生が偉くなったということで、この坂を白井坂と命名しようということにしたのです。今はここに、「白井坂」と書いた看板が立っています。そして碑も建っています。この時、彼は 43 歳です。大正 14 年 2 月 11 日で、この 2 月 11 日に意味があるのです。彼ははじめ第二小学校に勤めています。アイヌ学校は常に第二で、第一ではないのです。この第二小学校が第一小学校に合併されて、虻田尋常小学校になったと思うのですが、そこに奉職して、校長を退職するまでずっと務めるのです。子供たちの中には、いじめられるとか差別されるということで、学校に行きたくないというのがいるわけです。白井先生は坂の下にいて、子供たちに「おっ、来たか、学校まで駆けこするか」と言って、下駄でカタカタと音を出すと、子供たちは「わぁっ」と言って坂を上っていくのです。これも教育なのです。また、白井先生は、もし子供が学校に来なくなったら、家まで迎えに行くのです。そして、「学校に行こう」「勉強しよう」「差別に負けるな」ということを言うのです。そうして、彼は子供たちを連れて、この坂を何回も上ったり下ったりしたのです。

次、お願いします。一番上に書いてあることだけ読めたのですが、立派な碑文が書かれています。「徳高きこと天のごとし」と書いてあります。後は読めませんでした。これは彼 62 歳の時で、敗戦が色濃くなった 1944 年の 9 月 26 日に建てられたものです。碑を建てることになったのですが、彼は辞退しています。しかし、住民みんなで、本当に我々の子供たちの教育をしてくれたのだからということで、碑を建てることになりました。書かれている文字を一生懸命読んだのですが、読めないで、書き写して虻田町教育委員会に送って「読み方を教えて欲しい」とお願いしました。すると教育委員会の担当者は、洒落たことを言いました。「あなたは正確に読んでいる。虻田町史よりいい」と、逆に褒められました。これは小学校の敷地内にあるのですが、子供たちは分からないので、「何だこの岩盤みたいなもの」と思っているのではないのでしょうか。なかなか読めなかったのですが、何とか読み取った部分で、アイヌ民族のことを「化外の民」と書いてありました。化外とは、朝廷に逆らった奴らという

ことです。昔の碑ですが、いかにも軍国主義一色だなと思いました。内容には腹が立ちますが、白井をみんなで盛り立てていこうということで碑を建てたのです。物のない、食べる物のない時代に、みんな腹をすかせても、一生懸命頑張ったのです。

次、お願いします。これも立派な碑です。「白井柳治郎 頌徳碑」と書いてありました。そのとなりに胸像があります。この胸像は戦後、1957 年 11 月 23 日に建てられています。この時彼 75 歳で、北海道文化賞をもらった時です。彼は 84 歳まで生きましたので、これも存命中に建てられたのです。

次、お願いします。「徳高きこと天のごとし」と書かれた碑と、胸像があって、その真ん中に教育委員会が書いた立派な説明板があります。ところが、この説明はダメなのです。白井柳治郎の「治」を「次」と書いているのです。「閉校」を「開校」とも書いてありました。堂々と間違えているのです。後で、教育委員会に本を届けに行った時、「字が間違っていますよ」と言うと、「えっ、そうですか」と言っていました。直したと思いますが、白井を冒涇しているなと思いました。

白井柳治郎は一軒家に住んでいたのではなく、学校内の用務員さんの部屋に住んでいました。子供がたくさんいました。虻田の人たちは、校長先生が学校の隅っこで生活しているのは大変見苦しいし、いい教育をしているのだから、ちゃんとした一軒家に住んでいただきたいと言うのです。明石和歌助という、当時この地域のアイヌ民族のリーダーだった人も、「校長先生、一軒家を用意するからそこに住んでくれ」と言うのですが、彼は「そんな住宅は要りません。私はここで結構です」と言うのです。それでも、明石らは家を建てて、「引っ越してもらいたい」と言うのです。しかし、頑として「私はここで結構です」と言うのです。それでどうしたかということ、彼が出張でいない時を見計らって、アイヌ民族の人たちが「今だ、やるぞ」と言って、荷物を全部新しい家に運んでしまったのです。それほど謙虚な人だったのです。彼は東京大学出身で、学歴から言っても雲の上の人ですが、実に謙虚に、アイヌ民族のために 40 数年間尽くしたのです。しかし、歴史の中で彼をとらえた場合、どう評価していいのか苦しいところではあります。

次、お願いします。今度は釧路です。これは春採生活館、釧路支部の拠点があるところです。この向こう側が春採湖です。この生活館の横に碑が見えます。これが永久保秀二郎の碑です。

次、お願いします。これが永久保の碑です。この人は、明治の終わりだと思いますが、春採に来て、アイヌ学校になる前の、キリスト教団がつくった学校に奉職します。実に長い間、校長兼先生をしていました。こういう碑を後で建ててもらおうのですが、大きい玉石がたくさん積まれています。これは、春採の子供たちが、真夏に汗をたらたら流しながら石を運んで詰めて、そして建てた碑な

のです。大変温厚な人で、アイヌ民族に慕われました。この人が亡くなった時には、みんながおいおい泣いたということです。この碑の隣に、三浦政治という人の碑が建っています。

次、お願いします。ここに、「教育者三浦政治顕彰碑」と書いてあります。後ろは春採生活館です。三浦は、永久保に頼まれて跡継ぎの教師になったのです。ところが、3年半しか勤めることができませんでした。それは、本人の意思ではないのです。彼は、釧路国支庁（当時）と喧嘩をしたのです。彼は教師になって、とてもではないけれど、ここには何もなくて学校ではないということで、支庁に対して、少しでもアイヌ民族の子供たちにいい教育をしたいから、予算を出して欲しいと訴えたのです。ところが受け付けられないのです。彼は怒って、代議士にかけ合ったり新聞に投書したり、戦ったのです。支庁にしてみれば目ざわりな奴がいる、あんな奴は飛ばしてしまえとなったのです。それで3年半しかいることができなかったのです。彼は、大変いい言葉を残しています。それは、「アイヌを虐げたりシヤモ全部の身代わりとして死することを本懐とする」という言葉です。私は、これほど過激ないい言葉を使う人に、初めて出会いました。この人は、余りにもアイヌ民族に肩入れしたために、煙たがられて左遷させられたのです。この地域のアイヌ民族が支庁にかけ合いに行き、左遷するなどといって戦いました。しかし、最終的には決定に従って、三浦は、仕方なしに塘路湖の方の学校に行ってしまうのです。彼は学校で教える他に、地域のアイヌ民族の家を回って歩いて、「あなた方、シヤモにだまされているよ」とか、「生活を何とかしなければならぬ」ということを言って、

日夜、アイヌ民族のために奮闘したのです。それも煙たいと言われた理由の1つです。

碑の裏には、どういう先生だったかということが書いてあります。ところが、この碑は崖っぷちに建てられているために、字を読もうとしたら落ちそうになるのです。碑にしがみついても見なければ、読めないのです。もう少し前に出して、建てればよかったのと思いました。以前は、この碑の横に看板があったのです。いい文章が書かれていたのですが、残念ながら、私が行った時にはありませんでした。なぜそのことを知っているかというと、碑を建てた時に、小冊子が出されているのです。その小冊子に、先ほど言った「アイヌを虐げたりし・・・」という文章が出ています。看板があればいいと思うのですが、残念です。看板は立ててから何年かして、倒壊したのではないのでしょうか。この碑も大事にしたいと思います。

次、お願いします。これは白老にある碑で、一番新しいものです。建てられてから、まだ2年も経っていません。この碑は、病院があった場所に建てられています。その病院はいわゆる土人病院で、アイヌ民族を対象とした病院です。先生は、高橋房次という人です。

次、お願いします。ここに説明板があって、「旧高橋病院（院長故高橋房次先生）があったゆかりの地であります」と書いてあります。

次、お願いします。これは高橋房次の胸像です。もともとは白老小学校の敷地にあったのですが、公民館に移され、それからまたこの場所に移されたのです。説明板に、「貧富の別なく医療費等を度外視し」と書いてあります。知里真志保という人は、齒に衣を着せず、同僚や他のアイヌ研究者に対して文句を言った人です。その知里



白老支部建立の「アイヌ碑」除幕式

が、高橋を褒めています。彼が亡くなってから出た『和人は船を食う』という本の中で、「白老のシュバイツァーである」と絶賛しているのです。葬式の時は、彼を慕った多くの人が参列し、竹浦にある墓地まで、長蛇の列ができるほど人望があったのです。足が悪かったのですが、急患だと言ったら、自転車に乗って、実に遠くまで往診に行ったそうです。「お金を払えない」と言われても、「いいんだよ」と言って診たそうです。

次、お願いします。「北海道庁立白老病院(高橋医院跡地)」と見えます。この病院が廃止になった時、彼はこの場に残ることにしたのです。この医院の周りには、アイヌ民族の血を引く人たちがたくさん生活しているのですが、彼らは高橋先生が残ることになって、ほっとしたのです。

次、お願いします。このように、ものすごく大きい碑です。これは8月10日に行われた、除幕式の時のスライドです。パイプ椅子が並べてあって、たくさんの人が来ていて、除幕式、今や遅しというところです。

次、お願いします。ここに碑文があります。おそらく相当練ったのだと思いますが、読んで、いい碑文だと思いました。

次、お願いします。碑の裏に、労力を出した人、お金を出した人の名前が、びっしり書いてあります。これを読むだけで、この石碑がいかに多くの人から支持されて出来上がっているかが分かります。除幕式には、ウタリ協会の元理事長の野村義一さん、現理事長の加藤忠さんが来て、綱を引きました。非常に感動的でした。

次、お願いします。これは私が調べた中で、一番古い「アイヌ」と刻まれた碑です。「アイヌ民族甲魂碑」と書いてあります。この碑は、先ほどの三浦政治の碑より、何ヶ月か早く建てられています。小中学校の先生が中心になって建てたものです。この時まだ厚岸支部はありませんでしたので、厚岸支部が建てたわけではないのです。国泰寺の門の外に建てられているのですが、はじめは門の中に建てようとして、国泰寺の方でも「いいですよ」と許可したようです。しかし、釧路の山本多助さんが門の中に建てるのは反対だと言ったことから、門の外になったそうです。国泰寺の役割は何かと言うと、蝦夷地に仏教を広める、同時にアイヌ民族を慰撫する、押さえることだったのです。そのため山本さんは、そういうところに建てたくないと言ったのです。

次、お願いします。これは白糠支部が建てた碑です。石炭岬というところに東山公園があるのですが、その中で海が見える場所に、この碑が建っています。「白糠先駆者、アイヌ甲魂碑」と書いてあります。海が大変よく見えて景色がいいところなので、ここに行った時に、妻と二人で弁当を広げて食べました。近くには自然の林があって、そこにはヤマブドウもあり、つまんでおいしく食べました。この碑に「アイヌ」と刻んでありますが、先ほどいいましたように、「アイヌ」にするか「ウタリ」に

するかということで激論が交わされた結果、刻まれたものです。この他、「アイヌ」と刻んだ碑は、虻田、本別、伊達、むかわにあります。白老もそうです。ただ、「ウタリ」と書いた碑もいくつかあります。私が調査した中で5碑あります。幕別にある碑には、「ヤムワッカウタリ慰霊碑」と刻まれています。「アイヌ」と刻むことができなかったのかなと思います。

次、お願いします。これは伊達の善光寺公園にある碑です。善光寺公園は有珠の善光寺から虻田に向かって少し行ったところにある公園なのですが、その中に建っています。とても大きな碑で、「アイヌ記念碑」と書いてあります。この碑を初めて見たときは、あまりにも大きくてびっくりしました。よく見るとイナウが置いてあって、「ああ、聖地なんだな」と思いました。ずかずか入ってしまったので、失礼なことをしたと思いました。初めてここに行った時は6月か7月だったため、木が繁茂していました。碑を見るなら、葉が枯れ落ちた時期に行かなければと思いました。

次、お願いします。それから何年かして、また碑を見に行きました。すると、同じ碑なのですが、「アイヌ慰霊碑」と書いてあるのです。一緒に行っていた妻に向かって、「おい、おかしいな。俺たちが前に見たのは記念碑じゃなかったか」と言ったのです。表面の色が変わっていて、明らかに「慰霊碑」と書き換えられているのです。そして「伊達市先住民族」とも彫ってありました。このことを伊達支部の人に聞いたところ、建ててから10年経ったので書き換えたというのです。その人は、「アイヌ記念碑と言っても、何を記念するのか分からない」と言うのです。そして、「10年前に碑を建てた時も不満だった」と言うのです。碑を建てる時、「慰霊碑」にすると宗教がかかっているということで、伊達市が補助金を出せないとやったため、仕方がないから「記念碑」にして、補助金をもらったというのです。それから10年経って、変えてもいいかと市に聞いたところ何も言わなかったのです。慰霊碑と書き換えたそうです。私はこれに感動しました。普通は、石に文字を刻んだらそれでもう終わりだと思えると思うのです。後から、ああすれば良かったこうすれば良かったと言っても遅いのです。それを伊達支部はしぶとく、10年目で変えたのです。

次、お願いします。これはアイヌ慰霊碑の前に建てられた、チセとプ、プは倉庫です。このように、ここはアイヌ民族にとって大事な場所だということで、どんどん進化しているのです。伊達支部の人たちは、ここを本当に大事にしています。この周りにある木は全部桜なので、春先はとてもいいです。ただ碑を建てるだけではなく、気に入らなかつたら文字を変える、そのことを私は素晴らしいと思って、行く度に涙がでます。ただ、ここで1つ不満があります。何かと言いますと、左隣の碑文が気に入らないのです。その碑文には、「明治になって和人が入ってきて、我々は和人に協力した」と書かれているの

です。こういう碑文は、本別やむかわにもあります。私は「協力」ではなく、「共同で街を作ってきた」と書くべきだと思うのです。変えられないかと思い、支部の有力者に話したのですが・・・。「協力した」というのは、先住民族としては納得できないのではないかと私は思っています。

次、お願いします。名寄に北国博物館という郷土資料館があるのですが、その博物館から土別の方に向かって行くと、住宅街があります。その中にある碑です。後ろに2本の柱が立っています。これが何かは分かりませんが、儀式をする時に祭壇にするのではないかと考えています。

次、お願いします。ここに「アイヌネノアンキタカゼイソキチエカシプリコラムアイヌワポロスクブクル」と書いてあるのです。意味は、「人間らしい北風磯吉は、エカシ、大人として十分風格がある」ということです。私はこの碑を見て感動しました。先ほども言いましたが、碑文をどうして日本語で書くのか、アイヌ語で書いてもいいのではないかと、思っているからです。ただし、これには説明板が必要です。それが無ければ、何が書いてあるか、近所の人たちも子供たちも全く理解できないのです。この碑文は、亡くなられましたが、旭川の杉村満さんが書いたものです。アイヌ語で書いた碑があるのは、素晴らしいと思いました。北風の碑はもう1つあります。名寄と下川の境目にキトウシヌプリという地名があるのですが、そこは彼の生家があったところで、そこに碑があります。日露戦争で武功のあった人で、教科書にも載った人です。



北風磯吉の碑

これでスライドは終わりです。108のうち、たかだか10ぐらいを見ていただきましたが、まだ100近く残っています。それらについてもお話したのですが、別の機会にしたいと思います。以上のような碑を見て、こういう碑があるのか、そうなのかと、思っていたら、今日ここにきた甲斐があったというものです。家に帰って妻に、「皆さん喜んでくれたぞ」ということが言えます。

私がどうしてこういうことを調べているかということ、北海道の近・現代史を何としても知りたいと思い、それを碑の調査・研究という分野から迫ることができないかと考えたからです。この9年間、無我夢中になって、校務を放ったらかしにして、あちこち走り回ってきたのです。残念ながら、碑文には不十分なところや字の間違いがあります。「祖先を忍んで」やめて欲しいと思います。まだまだ、たくさんあります。それから年月日が書いていないものもあります。こうしたことは、碑の威厳を傷つけていると思います。特に石碑は末代ものなので、いい碑を建てるために、どんなに議論をしてもいいと思っています。調べたうち、96碑について『新版アイヌ民族の碑を訪ねて』という本にまとめました。推進機構の助成金で作った本です。今日持ってきましたので、読んでみたいと思う人に、差し上げます。

今日の話の本筋ではないのですが、初め、私は幕末の探検家である松浦武四郎の碑を調べていました。調べているうちに、アイヌ民族のことも調べなければと思って、調べ始めたのです。何で武四郎の碑を調べる気になったのかということは、また別な機会に話ができればと思いますが、全部調べました。『新版アイヌ民族の碑を訪ねて』に書いたのは96の碑ですが、残りは、この『増補改訂武四郎碑に刻まれたアイヌ民族』に書きました。この本に推進機構は助成金を出してくれなかったのが、自腹を切って出版しました。

時間になりましたので、これで終わります。イヤイライケレ（拍手）